

平成21年度 江別市 特別支援教育便り第7号

平成22年3月

江別市教育委員会学校教育支援室
特別支援教育コーディネーター
深瀬 禎一 TEL 381-1409

〔研修会特集号〕 「教員・保護者向け」

平成21年度 「特別支援教育研修会」 開催される 2月8日(月)

講師 北海道教育大学札幌校教授 青山 真二氏

◎ 家庭と学校の連携 ～子どものつまずき理解と支援～

◎ 子どものつまずきについて

★学習	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の時に指を使う ・ケアレスミスが多い ・スムーズに文が読めない ・漢字が覚えられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・九九が覚えられない ・計算は得意だが、文章は苦手 ・作文が書けない ・読めても意味が分からない 等
★生活	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着きがない ・忘れ物が多い ・服装がだらしない ・時間へのこだわりが強い 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の整理ができない ・行動が中途半端で雑なことが多い ・何事にも時間がかかる ・融通が利かない 等
★対人	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと遊びたがらない ・すぐにカッとなる ・平気でウソをつく ・場にそぐわない行動をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の要求ばかり通したがる ・人のいやがることを平気で言う ・人の話が分からない ・人の気持ちが分からない 等

◎ 発達障害

- ・ 広汎性発達障害 社会性に問題 自閉症、アスペルガー、
- ・ 学習障害 公道上の問題 普通学級に6, 3%はいる
- ・ ADHD 40人学級で2～3人いることになる
- ・ 知的障害 クラスの1割くらいになる。

☆ 学校ぐるみで対応していくことが必要。

機能障害のために、算数や国語、行動(対人関係・落ち着かない)でつまずいている子どもがいる。

◎ 子どものつまずきに対する理解

- ・ 発達論的視点からの理解 (どの発達段階にあるか分析)
- ・ 行動論的視点からの理解 (学習を規定している要因の分析)
- ・ 認知論的視点からの理解 (情報処理様式の分析)

※ その子どもが、どんな状況にあるのかをしっかりとらえて、対応すると行動の意味が分かる。

○ 発達論的子ども理解

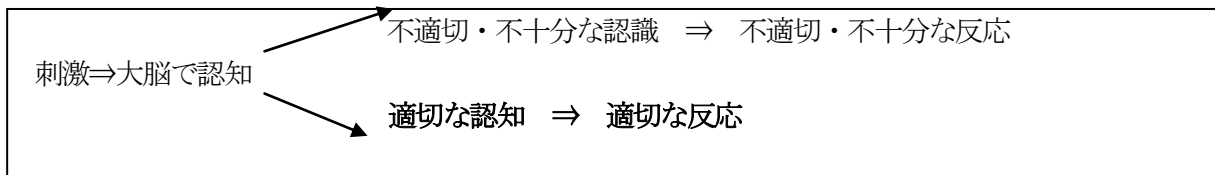
子どもの発達年齢と子どもの生活年齢を比較して、発達段階を捉える。

○ ピアジェの発達段階 (の提示がありました。)

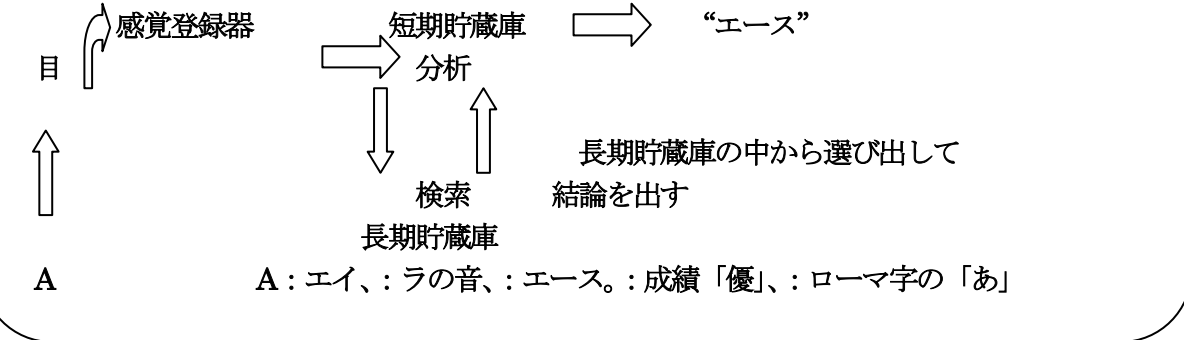
○ 行動論的子ども理解 「学習理論」からの解釈

- 三項随伴性
- ★どんな刺激が反応を起こさせるか検討
- 弁別刺激 ⇒ 反応 ⇒ 強化刺激
- ★どんな強化因が反応を高めるか検討
- ※ 約束は多くしない（一つにしぼる）、約束を意識させる（1日意識させるためにリマインダーを作る）
- ※ 許容範囲を作る。（1日10回までやっていいよなど）
- ※ 問題行動を起こしていないときに、その良い行動をいかに増やしていくとよいのか、を考えてやると良い。

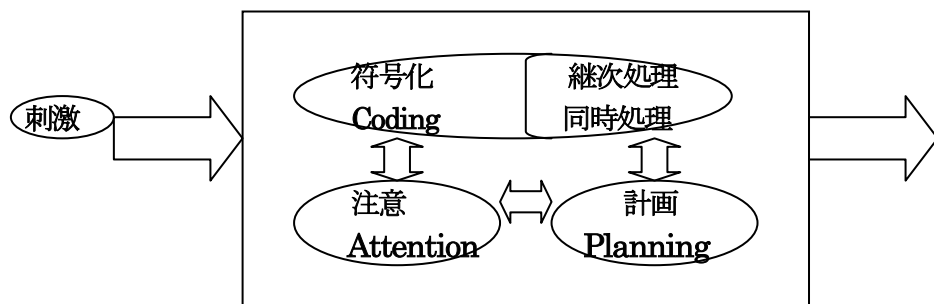
○ 認知論的子どもの理解 「認知論」からの解釈



○ 日常生活と認知（多重所蔵モデル）



認知処理過程の3つの機能（PASSモデル）



- ※ 刺激が入ったときに、注意を向けることが必要⇒ 刺激を符号化する⇒ これらをコントロールするのが **Planning** である。Planning の高さは知的な高さと言える。
- ☆ 継次処理とは？（Sequential Processing）
 - ・ 情報を一つずつ、時間的・系列的に順序を軸とした処理
 - ・ 継次処理は、刺激ごとの処理である。一つ一つの順序が問題であり、系列的な関係のみが重要になる。
- ☆ 同時処理とは？（Simultaneous Processing）
 - ・ 一度に複数の情報を統合し、全体的なまとまりとして、関係を軸とした処理
- ◇ 同時処理は、複数の刺激の全体的な処理で、刺激間の関連性が問題で、まとまりとしての全体が重要になる。

認知処理の大きな偏りと学習上の問題

- ※ 継次処理<同時処理 ・多い少ないは分かるが、数えられない
 ・文字はかけるが、筆順が覚えられない
- ※ 継次処理>同時処理 ・数えられるが、量が分からない
 ・文は読めるが、意味が分からない

つまづきに対する指導の原則

- できるところから始める (発達論的視点)
- できたら褒める (行動論的視点)
- 強い認知処理様式を活用 (認知論的視点)

《学校でできること》

- 1、子どもからの発信の理解
 - ・勉強が分からない！
 - ・勉強が面白くない！
 - ・どのように勉強してよいか分からない！
 - ・お友達と上手に遊べない！
 - ・すぐにけんかしちゃう！
 - ・失敗ばかりする！
 - ・僕をもっと褒めて！・・・etc
- 2、発信の（ヘルプ）の精査と対応

(1) お勉強が分からない

- 学習のアセスメント ①何を、どこまでできるか
 ②つまづきの原因は何か
 ③背景の原因は何か

<例> 九九ができない

- ① 足し算はどこまで可能か、九九の意味は・・・
- ② 情報の聴覚処理の問題は？
- ③ 情報に対する苦手意識、集中力・・・

(2) 勉強が面白くない！

授業の分析 ⇒ 楽しい、意欲的な学習

(子どもの反応からの分析)

- ① 教材教具の工夫 ※ 親和性、新奇性、操作性のある教材教具
- ② メリハリのある授業 ※ 話し方、動き、静的・動的課題
- ③ 分かる・できる授業展開 ※ ユニバーサルな授業、具体的個別支援

《家庭でできること》

1、自信を持たせる



いっぱい褒める

- Point 1 連続強化から部分強化へ
- Point 2 直接的強化から間接的強化へ
- Point 3 年齢に応じた褒め方の工夫

<例> 上手だね⇒面白いね⇒個性的だねえ

2、生活スキルを教える



一緒に行動する（掃除・洗濯・調理）

- Point 1 短時間で簡潔するスキルから
- Point 2 「感謝」で強化（間接的強化が有効）
- Point 3 次回はどうすべきか、具体的に考えさせる
- Point 4 最後に理解したことを褒める

3、社会のルールを教える



悪いことをしたときは、しっかりと叱る

- Point 1 目を見て真剣に叱る
- Point 2 なぜいけないのか説明する
- Point 3 次回はどうすべきか、具体的に考えさせる
- Point 4 最後に理解したことを褒める

やる気の形成と維持には？

- ・できることから始める（発達論的視点）
- ・いっぱい褒める（行動論的視点）
- ・得意なことを活用する（認知論的視点）

終わり

これで、当日の講演は終わりになっていますが、終わる前に講師が強調していたことがあります。それは、演題ともからみますが、「家庭と学校の連携」についてです。何のための連携か？それは、お子さんの学校生活が、いかに有意義に過ごさせるか等考えることです。

《学校でできること》と《家庭でできること》も話されましたが、「お互いに子どものためにできることをやってみましょう」ということです。

話しは変わりますが、江別市には「江別市特別支援教育専門家チーム」があり、専門家チームは、各学校からの要請により、学校を訪問してそのお子さんへの適切な指導・支援方法等を検討して助言したりしています。

巡回相談で、学校にお邪魔して、児童生徒の様子を見せてもらうことがありますが、どうして、もっと早く相談してくれなかったのだろうか？と思うケースがあります。

学校の担任も保護者も、どちらも子どもの幸せを願って話していると思われるのですが、なぜか上手くいかないことがあるようで、お互いに不信感を持って、うまく連携できないことがあるようです。子どもさんの状況をしっかりと受け止めて、少しでも有効な支援が受けられるようにしてやることこそが、家庭・学校の責務ではないでしょうか。どうか、お互いに子どもたちのことを考えて、よりよい支援を受けられるよう行動を起こしてください。

具体的には、担任の先生、コーディネーターの先生、教頭先生等に相談するのが良いと思います。